

最初で最後の打席 母の前会心の一打

①：学習院の加藤秀磨選手(3年)が八回二死一塁、代打として、生涯初の公式戦出場を果たし、左前打という結果を残した。中学で

はスコアラー、高校でベンチ入りした昨年になってからも一塁コーチとしての出番だけ。だが、誰もが認めるチーム一の実力家だ。練習後もバットを振り続け、冬の目標と決めた「3万回」の素振りを部員でただ一

人、達成した。試合後、滝沢拓也監督(33)は「一番下手だけれど、練習はうそをつかないなあ……」と言葉を詰まらせ、主戦郭貴史投手(同)からも、喜んだ。昨春から、転勤でドイツに移った両親や妹と離れ、

民間の寮で暮らす。野球を続けるため一人残った息子の応援に駆けつけた母美香さん(44)は、「もう頭が真っ白」と手放して喜んでいて。加藤選手も、「最後に悔いが残らないプレーができて良かった」と笑顔を見せた。